



びすけっと

223号—2021年7月—

埼玉県立小児医療センター

血液・腫瘍科

親の会 びすけっと

もっとみなさんにつながれるように…

Instagram始めました！

https://www.instagram.com/biscuit_oyanokai/



AYA week 2021

「AYA 世代を迎えた小児がん経験者及び AYA 世代がん経験者が知っておきたい、長期的健康管理に関する情報」
成田赤十字病院小児科副部長 寺田和樹先生

晩期合併症について、医療者も全てを理解できていないわけではない。健康管理については医療者に全て任せるのではなく、自分で意識を高く持つことが必要。小児白血病は現在では治癒が見込める病気となった。一方、治療後に問題が生じることが明らかになってきた。抗がん剤はがん細胞のみならず、正常な細胞も攻撃する。これによる副作用が治療中や治療後に残存している合併症を晩期合併症という。時間が経つにつれて発生率が上がってくるものが多い。治療後 30 年では 7 割弱の人に発症し、内 3 割は治療が必要。早期発見・早期治療が有効なものが多い。無症状で進行してしまう合併症があるが、早期発見・早期治療により治療や生活習慣で改善が見込まれるものもある。注意すべき症状を把握しておくことや定期的な通院が早期発見につながる。受けた治療により、晩期合併症の予測ができる。骨髄移植や放射線治療を行うとホルモンの影響で疲れやすくなるなど。使用した薬剤によって引き起こされる合併症が予測できる。退院後の定期受診の必要性がわからなかったり、時間やお金の問題（小慢が切れると医療費の補助は無い）などで定期受診が中断してしまうことがある。

いつまでも受診を継続することが理想だが現実的には困難。受診を継続するだけでは無く複数の専門外来を受診している場合もあり、自分で健康管理ができる能力（ヘルスリテラシー）の獲得が重要。原病と治療内容・晩期合併症の理解、受診する医療機関の決定、サマリーなど治療歴の所持、適切に医療機関を受診することが求められる。

造血幹細胞移植、放射線治療、再発、脳腫瘍、遺伝性腫瘍に該当する場合は晩期合併症のリスクが高いため健康管理の意識を高く持つと良い。二次がん、心疾患には特に注意が必要。放射線照射、ホルモン補充療法を行った人、慢性 GVHD があった人は適切ながん検診を実施することが推奨される。心臓、肝臓、骨は無症状でも注意が必要。

職場検診で異常があった場合やよく経験する症状やいつもと違う症状が 1 週間以上続く場合は受診する。めまい、胸痛、息切れ、青あざは重篤な病気の可能性があるため必ず受診する。意欲が無い、気持ちの変化が激しい、疲れやすいなどは内分泌の晩期合併症の場合がある。晩期合併症が疑われる症状の場合は治療を受けた病院か小児がん拠点病院の長期フォローアップ外来を受診する。

インターネットで情報を得る場合は正確性に注意が必要。東京小児がん研究グループ長期フォローアップ委員会のホームページや AYA 研が作っている LINE 公式アカウントなどを参照してほしい。

より快適に長く人生を過ごすため、健康管理を意識してもらえれば幸い。

次回のびすけっとは、**8/10(火) 11:00～**

相談室 B (2F 総合受付奥)

※びすけっとの参加のためだけに病院に来られた場合、以下の点にご注意下さい。

- ・駐車料金は一般料金になりますので、病院外の駐車場をご利用することをおすすめします。
- ・入館時の健康チェックシートは、外来・面会用ではなく、職員専用通路内にある来客・業者用をご使用ください。

※変更の場合があるため、
来る前にインスタや
LINE で確認してね。

びすけっと連絡先：代表 柳戸 民子

〒350-2224 鶴ヶ島市町屋 112-5

TEL 049-271-4708 (留守電)

e-mail yanagido@t.zaig.jp

柳戸 LINE、QR コード
ラインでのご連絡も OK!

